

## 第八章 LAN (Local Area Network) の整備

**現状：**平成8年からの5ヶ年計画及びその後の整備により、学園横断の情報基盤の充実が図られた。LANは、大きく館林地区と太田地区に区分して設置され、教育・研究用、法人・各学校事務用、学生用に使用され、館林地区を窓口としてインターネットに接続されている。(別図：情報基盤システム構成図を参照のこと。)学園横断の方針に基づき、適宜、新機種への交換配備等の施策が実施され、専門家の外部委託によりネットは統一的に運用、支援されている。

主要な用途と配置数等を示せば、次のとおり。

### ・「外部との接続」

インターネット：インターネットへATM 6MBで館林地区に接続され、館林～太田地区はATM 5MB(バックアップとしてISDN 128mbps)で接続されている。

電話回線：外部から電話回線により、館林地区及び太田地区にモデム、ダイヤルアップ・ルータを介して接続できる。

上記はいずれもファイアウォールによりスクリーニングされ、最新のウィルス予防ソフトによりウィルス汚染を防止している。

### ・「学生教育用」

コンピュータ実習用：実習教育環境として独立し、C-2教室(PC 90台)、C-3(PC 76台)によりコンピュータ・リテラシー、の授業で使用されている。

演習室：演習の独立環境で、PC 28台により、英語教育(UEC)講義、演習の一部で使用されている。

経営情報システム教育用：同システムの教育用として独立環境で223教室(PC 20台)、224教室(PC 1台)が使用されている。

開放端末：学生の常時使用のため、第1開放端末室(PC 26台)、第2開放端末室(PC 24台)の施設及び授業で使用されていない時間帯にC-2教室(PC 90台)、C-3(PC 76台)の利用の便宜を図っている。

情報コンセント：食堂、学習室、学生控室に情報コンセントを設置し、学生が個人用の携帯用PCを学内LANに接続する上での便宜を図っている。

教材開発室：教材開発に必要な高性能機材一式を備え、教職員、学生による教材等の開発、作成に使用している。

教員研究用：教員の教育・研究用として、各研究室にPC/プリンタ各1台を配置しその用に供している。(合計94セット)

事務用：事務職の各執務場所にPC 123台、プリンタ 45台を事務用として使用している。

LAN運営用：LAN運営用として、PCサーバー用(ノートサーバー、WINSサーバー、教育系、独立環境、経営情報システムコース)、UNIXサーバー用、専用機などの用途にサーバー 33台を、電算機室(16台)、情報資料室(5台)、演習室(4台)

第1管理研究棟（1階、3階に各1台、計2台）、経済学部1号館（6台）に配備し、それぞれの用途の運営に当たっている。

システムの運営：LAN運営には、大学部門においては、システムセンター/ヘルプデスクとして外部委託した専門家4ないし5名が、システムの運営、維持、修理、ユーザーの使用上の助言などに当たっている。

#### 自己点検・評価：

- ・教育・研究、管理、事務支援用として、学園横断（法人本部、大学、短期大学、附属高等学校）で情報基盤の整合性が取れ、統一的な運用が可能でかつ経済性も考慮して、綿密な検討の末、現在のLANが設定され、運営維持されている。
- ・学生教育の一つの重要項目として、情報化を強調、推進し、全学生がコンピュータ・リテラシー、（1年次、半期各2単位）を必修とし、将来、社会人として必要最低限のコンピュータ運用能力の修得を目標としている。
- ・将来、情報関連産業への進路を目指す一部の学生を対象に更に、高度の教育コースとして経営情報システムコースを新設し、教育設備を追加、増設し、教育に当たっている。
- ・学生の開放端末室の利用、教職員・学生による教材開発室機能の利用も最近、盛んになっている。

#### [長所と問題点]

##### 長所：

- ・学生に対する情報教育を最重要項目の柱の一つとして位置付けて、相当の経費を持って情報基盤の整備と教育内容の向上に取り組んでいる。
- ・教員に対し各研究室にコンピュータを配置し、教育・研究目的のコンピュータ及びネットワークの便宜を提供し、その高度利用を促進している。
- ・同時に管理、事務支援にもシステムの高度利用を図り、システムの運用維持に最適の制度を組み合わせ、情報基盤の維持・更新の経費の合理化、最適化を図っている。特に事務職員に対しては一人一台のコンピュータが97年末から導入され、システムとネットワークの利用に慣熟させ、事務の高度化、合理化に寄与している。
- ・教職員、学生の初心者訓練について、導入教育コースを設定し、実施してきた。
- ・特に学生に対しては、パソコンの習熟が、必要不可欠であることを強調し、希望者に対しノート型を始め各種のパソコン購入を積極的に推奨している。
- ・外部委託による専門家からなるシステムセンターを設置し、パソコンの使用、システムの高度利用法などの助言サービスに当たらせている。
- ・学生に対し休講情報等の重要な情報について、学外からの携帯電話による照会に対し、短文メッセージで情報を流すサービスを行っている。

**問題点：**

- ・教職員、学生の大半は、情報の運用能力をほぼ身に付けており、利用の高度化が見られるが、一部には情報化の波に乗れず、能力が低いままの学生、教職員が存在する。
- ・教材開発、教育コンテンツの作成、維持、更新には高度の技術を必要とし、将来の高度利用に、これらの作業に当たる支援機能の確保が困難である。
- ・システムの機器等性能向上に伴い、社会の趨勢に対応していくためには、その定期的な更新が必要であるとされ、巨額の設備投資資金が必要となる。

**[ 将来の改善・改革に向けた方策 ]**

- ・情報教育について来れず落ちこぼれる学生の教育について、動機付け、必要最低限の運用能力を身につけさせる教育技法の改善が望まれる。
- ・更に学生の情報運用能力を向上、発展させるため、情報教育以外の教育の場でも高度の利用、日常の教育での使用を図るため、関連の講習や研修及び更に教育技法の改善、実行が望まれる。
- ・情報基盤を社会の標準に合わせるために必要な巨額の設備投資資金の準備のため、文部科学省補助金の利用について更に高度の利用を図ることが望ましい。